

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ

第64話

甲状腺の病気



市民病院内分泌内科
代務医師

大山 かわり

甲 甲状腺は甲状腺ホルモンを産生する臓器で、乳児期では中枢神経系の発達に、小児期には骨格の成長と成熟に深く関与しています。また、心臓の収縮性・心拍数増加、脂肪細胞における脂肪分解、消化管における糖質の吸収促進など、各組織での代謝促進による酸素消費の増加、熱産生に關与しています。

● **甲状腺機能の異常が起こると**
甲状腺機能の異常によって現れ

る症状を表にまとめましたので、比較してみましよう。これらの症状は典型的な症状であり、甲状腺機能の異常がかなり進んだ状態で出現するものです。これらのどちらか一方に3つ以上当てはまる項目がある場合は、甲状腺の病気の可能性があります。

● **検査方法**
甲状腺の機能を判断するため、血液検査により甲状腺ホルモンの値を測定します。

甲状腺機能亢進(ホルモン過剰)	症 状	甲状腺機能低下(ホルモン不足)
食欲はあるのに痩せてくる	体 重	体がむくみ気味になり、体重が増える
体温が上がり、暑がりになる	体 温	体温が下がり、寒がりになる
脈が早く動悸がして、不整脈(心房細動)を生じることがある	脈 拍	脈が遅く、弱い
寝つきが悪くなる	睡 眠	傾眠がちになる
落ち着きがなくなる	精神状態	抑うつ的になる
汗ばんでいる	皮膚・毛髪	乾燥して髪や眉が薄くなる
下痢をしやすくなったり、便秘気味だった人が便秘が良くなる	便 通	便秘気味になる
手足が震える	その他	声がかすれたり、太くなる

ホルモン過剰の場合は、甲状腺機能亢進症と診断します。多くはバセドウ病という自己免疫の病気です。起ります原因も、ほかに甲状腺炎などによる原因もあり、診断には自己抗体の採血やエコーが必要で

す。

ホルモン不足の場合は、甲状腺機能低下症と診断します。多くは

橋本病という自己免疫の病気が原因で起ります。甲状腺機能が低下すると、コレステロールの数値が増加することがあり、初期の甲状腺機能低下症を発見するきっかけとなる場合があります。

甲状腺は頸部にある比較的薄い臓器ですが、甲状腺の腫大を指摘された場合は、甲状腺内に腫瘍性病変があるのかを頸部超音波検査などで調べます。甲状腺に腫瘍があった場合、必要に応じ、細い針を刺して細胞の検査を行い(細胞診)、悪性腫瘍の可能性があるか精査します。

● **意外と多い甲状腺疾患**

甲状腺疾患の頻度は高いと言われています。疫学的な調査では健診受診者の10%に認められたという報告もあり、甲状腺の病気は従来考えられていたよりも高頻度であることが分かってきました。また、甲状腺の機能異常は男性より女性に多く見られるのも特徴です。甲状腺の病気の症状はほかの病気の症状と誤認されやすいため、病気そのものに気付きにくい場合もあります。

甲状腺の病気に関して思い当たる症状がある方は、一度かかりつけの医師にご相談ください。